

平成 30 年は、大阪北部地震（震度 6 弱）、西日本豪雨、台風 21 号、北海道胆振東部地震（震度 7：いぶりとうぶじしん）、等自然災害が多発しています。加えて記録的な猛暑日（命の危険な暑さ）でした。地球温暖化の影響でしょうか

6 月 18 日（月）早朝に大阪北部地震が発生して高槻市においては小学生が登校時に通学路にて「壁」が転倒して亡くなる惨事が起きました。痛ましい出来事でした。高槻市社会福祉協議会も高槻市要請の基、初めて「災害ボランティアセンター」（以降「災害 VC」と略）を 20 日（水）に開設されて 7 月 28 日（土）に閉所されました。期間中に市内、市外、府外より多くのボランティア従事者（延べ 1,884 人）が登録され活動されました。活動件数は 682 件（内ブルーシート張り 254 件）です。

今回高槻市ボランティア連絡協議会（ボラ連）に市民活動センター（ボラセン）より災害 VC の運営支援協力が有り携わって来ました。土日を中心にして週 4 日から 5 日間災害 VC に福祉部木田副部長と参加して来ました。今までも社会福祉協議会が実施して来ました「災害 VC 設置・運営シミュレーション」にはボラ連から毎回 15 名前後が参加し、ボランティア活動者の役割を担って社協職員さんの災害 VC 時に於ける活動のお手伝を行って来ましたが、今回は、運営の一担を受け持つ事になりました。

災害 VC 役割には、①総務・広報・データ整理②ニーズ受付・収集部門③ボランティアコーディネート部門（受付、保険、調整、現地調査、記録、呼び掛け、報告受け）④活動資材・物質部門⑤車両・道案内部門⑥救護・衛生部門 ⑦ブルーシート対応部門と多種に亘ります。①②③には、大阪府社協を始め市町村社協及び府外地域社協より職員の応援も有り災害 VC 運営が日々を重ねる毎に流れがスムーズに運んで行きました。ボラ連の担当は、コーディネート部門の報告受けと朝 VC 開始時に於いてボランティア従事者の受付、保険加入とスムーズに流れるお手伝いです。報告時に活動者が現地で感じられた事をいかに上手く聞き取り新たなニーズに繋げて行けるかでした。日毎にボランティアの皆さんと上手くコミュニケーションが取れる様になり役割を果たす事が出来たと思います。ボランティアの皆さんが活動に VC を出発される時に、お願いします。有難う御座います。暑い中水分補給に気を付けて下さい。等の声掛けも運営スタッフの大事な役目です。ボランティアの皆さんは、出発される時も活動後 VC に帰着して報告用紙に記入される時もメンバーと会話しながら笑顔です。

今回災害 VC に参加されたボランティアは、中学生、高校生、大学生（兵庫県立大学・東北大学等）を始め若い人から一般の人まで幅広い皆さんに出会い温かい気持ちをいただく事が出来ました。東北大学生は、前日に空路にて神戸に入り関西の大学の皆さんとグループを組み午前は、市内の被災者宅での片付けに参加、午後は、福祉会館 2 階廊下でボランティア参加者へ「あし湯」にて癒しのボランティアをして終了後新幹線にて宮城へ帰って行きました。

高槻市災害 VC が今後も設置される事は望みませんが、今回の体験を踏まえてボラ連として災害 VC に関わる事に対しての課題も出て来ました。検討が必要になりました。